

尼崎市制110周年プロジェクトの





市制110周年を記念した ロゴマーク制作の「想い」や「狙い」

曽田 尼崎市は2026年に市制110周年を迎えるにあた り、市制110周年記念プロジェクトを展開することを決 定し、ここにいる安田と吉川はそのために招集されたメン バーです。市としてはプロジェクトを立ち上げたものの、 尼崎市に住まれている方にとって、110周年と言われて もピンとこない人もいるかもしれません。尼崎市に住まれ ている方やお仕事に来られている方、その他大勢の方と盛 り上げていきたいなという想いからロゴマークの制作を決 めました。

吉川 制作にあたり、このプロジェクトの認知度を高めて いく目的から、ロゴマーク原案を広く募集しました。神鋼 鋼線さんにもビラの掲示や配布を行っていただきました が、今年の7月1日~8月15日の期間で募集し、300件を 超える応募がありました。

安田 全国から、小さなお子様からプロのデザイナーまで 幅広く応募をいただくことができました。

ロゴマークの審査方法は?

曽田 検討会議を設けて、有識者のご意見を聞き、市が決 定するという方法を取りました。検討会に参加していただ いた有識者の委員は、グラフィックデザイナーやMBS企 画、園田学園大学、あまがさき110ミーティング構成員 の方といった、多方面の方から構成されています。デザイ ン性や尼崎市の歴史、市民の方からの見え方など、様々な 観点からご意見をいただきたいという想いからです。

吉川 すべてのデザイン案に番号を付与し、全部並べて意



市制110周年を記念した「ロゴマーク」が決定しました!

テーマ 「あまがさき つなぐ つながる うごきだす」

作者のメッセージ

尼崎の伝統野菜、「尼いも」「田能の里芋」「一寸そら豆」が、笑顔で、仲良く手をつな いで歩き出すイメージで作成しました。

この3種の野菜たちは、尼崎市制110年より、もっともっと昔から育てられ、続いてきた 歴史があります。町の伝統野菜を育て続けることと、食することは、人々の心も、町の経 済もうるおし、幸せにつながっていくと思います。尼崎市も、ずっとずっと人々に愛さ れ、幸せな気持ち溢れる町であり続けることを願います!

作成者情報

市内在住 hossy nakkie (ホッシーナッキー)



つなぐ つながる うごきだす





見交換を行いました。初回の検討会議では、委員の皆様の 見るポイントが違うため、非常に盛り上がり全然時間が足 りませんでした。最終的には、最優秀賞・優秀賞・こども デザイン賞を選出し、最優秀賞が今回決定したロゴマーク となっています。

安田 ロゴマークなので、当然、デザインは重視するので すが、それぞれのデザインに理由やエピソードが書いてあ りました。すごく良いエピソードもたくさんあって、迷わ れていたポイントの一つかと思います。

一番苦労されたポイントは?

吉川 ロゴマークを募集して集まるのか、すごく広報が不 安でした。この部署に異動する前は、「あまがさき観光 局」で仕事をしていたので、神鋼鋼線をはじめ、多くの企 業様に回らせていただき、プロジェクトやロゴマークの募 集を広報させていただきました。今回のように、"線輪" でも取り上げていただき、感謝しています。



安田 吉川さんとは異なり、地域活動に軸足を置いた仕事 をしてきました。尼崎には生涯学習プラザというものがあ るのですが、それぞれに各地域と繋がっているプラット フォームがあり、そこで広報に注力しました。尼崎市は、 他の市と比べて、市民の皆様と街づくりを行っている街だ と言われています。

市制110周年記念プロジェクトについて

吉川 市民の皆様や事業者の皆様が築いてきた尼崎市、そ の歴史に触れてもらうきっかけになったら良いなと思って います。みんなで振り返り、一人ひとりが自分事に捉えて



くれたら、もっと尼崎を好きになってもらえるんじゃない かと思っています。

安田 尼崎市を長らく支えているのは市民の皆様である実 感があります。市民の皆様にスポットがあたり、次の世代 に受け継がれるプロジェクトになれば良いなと思っていま す。

曽田 このプロジェクト自体、「110」という特別キリ が良い数字ではない中、そもそも「やるか、やらないか」 からの議論から始まっています。ただ、最終的には、 「100年を迎えた後のこの10年は尼崎市にとって特別な ものだ」という強い思いのもと、市としてプロジェクトを 実施するという判断をしました。この10年の変化を実感 してもらえる機会になったら良いなと思っています。

(敬称略)



尼崎市制110周年プロジェクト②に続く

周年沿革

Chronology of 110 Years of Amagasaki City

「110周年へ ― 市民と紡いだ新たな物語」

1916年(大正5年)に、尼崎町と立花村(東難波・西難波の一部)が合併し誕生した尼崎市は、2016年に

2016年からの10年間は、中学給食の開始や、生涯学習プラザの設置など、市民生活の向上につながる

尼崎市街の変遷







1985年(昭和60年)

100周年を迎え、新たな歴史への一歩を市民とともに踏み出しました。

施策を行なってきました。2026年には110周年を迎え、新たなステージが始まります。

尼崎町+立花村の|部が合併 尼崎市誕生(市制施行)

1916

上水道完成

1936

市章制定

1942

1947

防潮堤完成

1955

1966

第1次公害防止協定締結(県・市・企業)

第13回「緑の都市賞」受賞

2009

中核市移行(県下では、姫路市・西宮市についで3番目)

2016

目治のまちづくり条例制定

2017

2018

2019

2020

市内初の新型コロナ感染者発生、コロナ禍へ

2021

シティプロモーションが3つのアワードを受賞

2023

市制110周年

2026

「学びの多様化学校」設置[尼崎市立児童相談所]設置

尼崎市と小田村が合併



武庫村、立花村が合併尼崎市と大庄村、

尼崎市と園田村が合併



尼崎市人口が55万4000人突破(人口のピ







①航空写真/米軍撮影空中写真(昭和23年9月1日撮影)

②航空写真/尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ ③航空写真/国土地理院撮影空中写真(昭和60年6月6日撮影)

⑤防潮堤/尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ

⑦阪神淡路/尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ

⑧尼崎城/(一社)あまがさき観光局